

もつと知りたいたい！ 消防団

市内いたる所で目にする火の見やぐら。早朝や夜に聞こえてくる鐘の音。身近でありながら、知られる機会が少ない消防団の実情について、もう少し詳しく探りました。

Q 消防団と消防署の違いは？

先にも紹介しましたが、消防署員は、消防を職業としていますが、消防団員はそれぞれの本業を持ちながら、消防活動を行っています。

団員の身分は非常勤特別職の地方公務員となります。また、地域の自主防災会の訓練、各種行事への参加など、地域の活動も行っており、消防団は身近で、コミュニティ活動に近い防災組織であるといえます。

団員になるには、特別な資格は必要ありません。市内に住む18歳以上の人で、健康な人ならOKです。5年以上(年度単位)勤続して退団するときは、退職報奨金が支給されます。



署の帽子



団の帽子

Q 「火の見やぐら」の役割は？

テレビの時代劇などで、火の見やぐらの半鐘を鳴らすシーンをたびたび目にします。

通信手段が発達した現在、このような使い方はしていませんが、火災予防週間中は、団員が半鐘やサイレンを鳴らし、住民に警戒を促しています。

また、火災現場や訓練で使用したホースを干す場所として、防犯灯や防災行政無線の屋外スピーカーの設置場所として使われている火の見やぐらもあります。その形状は、地域や分団によってさまざま。それぞれの形状に個性があります。

使用されず、老朽化が進む火の見やぐらは、撤去する予定ですが、詰所で使用しているものは、引き続き活用する方針です。

Q 私たちのまちを どのように守っていますか？



昨年度、災害現場などへの消防団の出動は、火災が31回、行方不明者の捜索が7回、台風接近による警戒が1回となっており、(各方面隊または全体の出場の合計)。そのうち、行方不明者の探索については、探索期間中に無事に発見された事例が2件ありました。

消防団の活躍は、このような災害現場での消火や捜索活動ばかりではありません。むしろ、団の活動のほとんどは、普段目にしにくい継続的な活動です。平常時は、月に1〜3回程度、春秋・年末などには、1週間程度、地域内で警戒しています。これに加え、規律訓練や消火栓の点検など、万が一の場合に備え、さまざまな取り組みを行っています。

Q 団員が足りないと聞きました。

市の条例で定められた定員は1090人。現在の団員数は980人なので、110人の団員が足りていない状況です。

団員数の減少は、地域の防災力の低下に直結する問題です。国の地震調査研究推進本部では、安曇野市が位置する活断層は、マグニチュード8程度の地震が起こる確率が30年以内で14割と公表しています。

平成19年に発生した能登半島地震や新潟中越地震では、地元消防団がいち早く現場に駆けつけ火災の消火活動、避難誘導などで活躍したことが話題になりました。

消防団は地域防災の要です。団員の確保に、市民の皆さま、事業所の皆さまのご協力をお願いいたします。

詳しくは堀金総合支所内危機管理室(下記)までお気軽にご相談ください。

特集◎ふたつの顔

7月10日、須砂渡渓谷での行方不明者の捜索。現地で捜索ルートの説明を聞く団員たち。この捜索活動により、行方不明者は午前11時半ころ無事発見された。

市の条例で定められた定員は1090人。現在の団員数は980人なので、110人の団員が足りていない状況です。

地震や新潟中越地震では、地元消防団がいち早く現場に駆けつけ火災の消火活動、避難誘導などで活躍したことが話題になりました。

8.22 日 おいでよ! 消防フェスティバル



市民の皆さんに消防団の活動を知っていただくと同時に、防災に対する知識をさらに高めていただくため、消防フェスティバルを開催します。消火器・消防ホースでの消火体験や煙道体験、消防車両の展示、はしご車の乗車体験、音楽喇叭隊の演奏などが行われます。ご家族そろってお出掛けください。

■日時 8月22日(日) 午前10時~午後3時

■場所 豊科サティ東側駐車場、1階食堂街

※雨天時は、豊科サティ1階食堂街にて活動パネル展のみ実施

堀金総合支所内危機管理室 (TEL 72・6769 FAX 72・6739)